

ポリオ友の会東海

生い立ち

1998年10月に発足。現在東海4県と北陸を中心に、約200人の会員で活動しています。

目的

- 1) ポストポリオの正しい理解
- 2) 自分のからだ(ポリオ)の状態を正しく知ること
- 3) 会員同士の情報交換と親睦
- 4) 全国ポリオ会との連携



活動内容

主な活動は、講演会を兼ねた総会と例会、新年会、一泊交流会、会報の発行、ポリオ相談会(BGraSプロジェクト)です。また会員に神経内科、リハビリ科、内科等の医師がいて悩める会員のための医療相談に適切に対応しています。からだ全体のこと、外出、生活すべての事を一人で悩まず、多くの仲間や専門医に相談してみませんか。

B GraS (Beyond the Gray Sky) プロジェクト

藤田保健衛生大学(リハビリテーション科)との協働事業。ポストポリオ症候群の発症要因や、予防、治療の方法を研究、開発しています。これらの成果を国内外に発信すべく、頑張っています。専門医と理学療法士、作業療法士による詳細な検査結果を踏まえたリハビリ指導(運動、装具、杖、靴等)と生活指導を受けることができます。からだの機能低下に不安を抱く会員には希望と勇気が与えられ好評です。

出版物のご案内

「ポストポリオ症候群」- その病態から対処法まで -
L.S.Halstead著 向山昌邦ほか訳 A4版 227頁

購入方法は冊数、住所、氏名、電話を明記の上、下記の郵便振替口座へ代金をお振込みください。

口座番号 : 02720 -6 - 95146
加入者名 : 全国ポリオ会連絡会
書籍代金 : 2,000円 (送料込み)

東海各地の会ご案内

岐阜地区

中島 浩一 〒501-1152 岐阜市又丸 694-7
Tel 058-234-3305 Fax 058-234-4400

尾張地区

志村 潤子 〒485-0073 小牧市舟津 484
Tel / Fax 0568-77-4870
落合 実長 〒485-0803 小牧市高根2-46-2
Tel / Fax 0568-78-3511

三河地区

縣(あがた)啓子 〒443-0103 蒲郡市形原町北浜11-14
Tel / Fax 0533-57-1382
阿部 たみ子 〒441-0204 豊川市赤坂台 847
Tel / Fax 0533-88-2157

三重地区

田中 邦雄 〒518-0025 伊賀市西高倉6058
Tel / Fax 0595-21-6645
山下 千明 〒510-1233 三重郡菰野町菰野3105-12
Tel / Fax 0593-94-5504

静岡地区

横山 博則 〒436-0025 掛川市下俣1080-3
Tel / Fax 0537-24-5333

北陸地区

泉 広栄 〒921-8151 金沢市窪 5-245
Tel / Fax 076-243-7689

年に1度、お近くの会員が気楽に集まり合えるように、各地区での催しが開催されています。

全国ポリオ会連絡会

全国に7地区にあるポリオ会(北海道、青森、仙台、東海、神戸、九州、大阪)を会員として、2001年に発足しました。ポストポリオに関する情報提供、生活しやすい社会の実現や社会参加などについて、他の障害者団体と連携しての活動などを主な目的としています。

【2014年5月発行】



ポリオを体験した あなたに

ポストポリオを 知っていますか？



カットのメッセージ

青い花のオオイヌフグりは春一番に太陽をいっぱい浴びて咲く雑草で灰色の空の向こうの(BGraS)青空を象徴し、スギナ(土筆)は何度引き抜いても生えてくる特徴から生命力を象徴します。

ポリオ友の会東海

住 所 : 〒467-0046 名古屋市瑞穂区玉水町2-72
代表者 : 横井 敦子
連絡先 : Tel : 052-831-5014 Fax : 052-833-8132
U R L : www.ne.jp/asahi/porio-tomonokai/tokai



ポリオとともに

ポリオとは脊髄性小児麻痺のことです

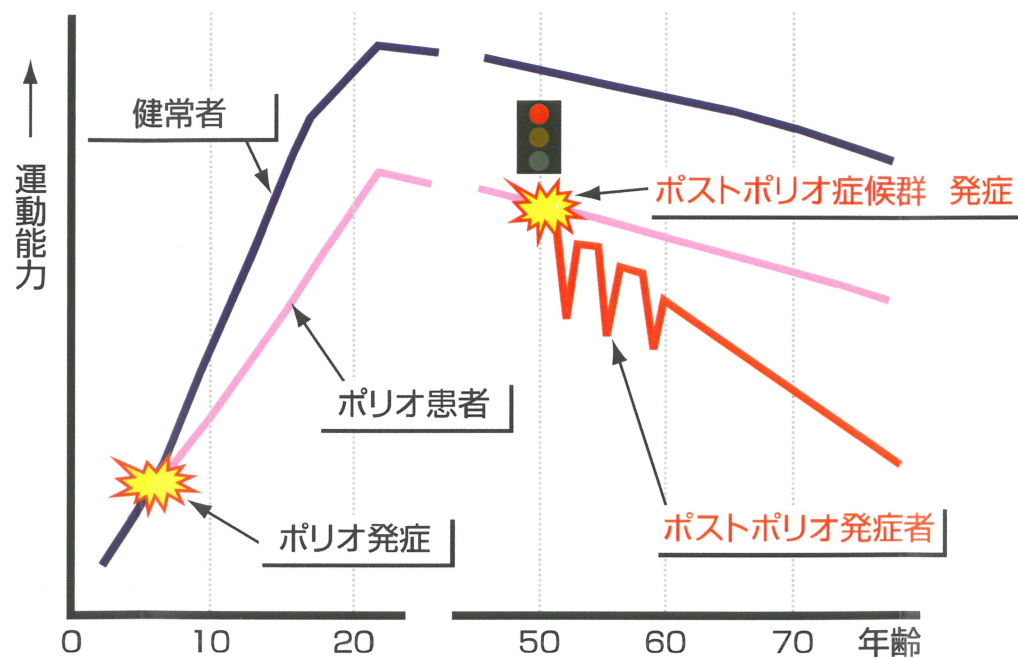
ポリオウイルスによる感染症で、急性脊髄灰白髄炎または脊髄性小児麻痺ともよばれ、抵抗力(免疫力)の弱い乳幼児に好発します。日本を含む西太平洋地域と南北アメリカ大陸、ヨーロッパ諸国(EU)ではポリオの予防接種(ポリオワクチン投与)が徹底しているので、近年新しい発病者はありません。しかし、世界に目を向けると、アフリカ(ナイジェリア)、中近東、インド、インドネシアなどでは、今でも新しい患者が発生しています。経口感染したポリオウイルスは、消化管壁で増殖して、血液中に侵入します。最初の症状は、発熱、頭痛、吐き気、下痢など、普通の風邪と同じですが、数日後に突然手や足が動かなくなります。ポリオウイルスは血液から脊髄の運動神経細胞に好んで入り込み、壊してしまうのです。これらの運動神経細胞から出る末梢神経は手足の筋肉につながっていて、個々の筋肉に運動の命令を伝えています。ウイルスが侵入した運動神経細胞は壊れて消滅するので、それらの神経細胞から命令を受けていた手足の筋肉は動かなくなります。これがポリオによる麻痺で、この麻痺が後遺症として残ります。



ポストポリオとは

手足に運動麻痺の後遺症を持ちながらも、元気に日常生活を送っていたポリオ経験者が、40代～50代になった頃に、新たな筋力の低下や筋肉の痩せ、筋肉・関節の痛み、手足のしびれや冷感、息苦しさ、腰痛、異常な疲れ易さなどの症状が出現することがあり、PPS(ポストポリオ症候群、ポリオ後発性筋萎縮症)と呼ばれています。筋力の低下と同時に、またはこれに先立って、その筋肉内の筋繊維がびくびくと細かく動く過敏現象(筋繊維攣縮)が見られることがあります。

PPSはポリオ経験者がすべて発症するわけではありません。PPSの諸症状は後遺症のある同じ手や足に現れることが多いですが、他の手足に見られることもあります。PPSの筋力低下や筋萎縮は安静を保ち、上手に対処するとまもなく回復します。ただ、疲れたり、体調をくずすとPPSが再発することがあります。



向山昌邦博士(神経内科専門医)による



どうしたらいいの

神経内科の専門医や、整形外科、内科、理学療法科(リハビリテーション科)で、神経・筋肉の障害を専門に診療している医師に相談しましょう。最近は、各地にポリオ会ができ、お互いに連絡を取り合っていますので、よい先生が見つからなければ、お近くの会にご相談ください。PPSと思われる症状が現れた場合には、無理な運動は避け、安静を保ち、マッサージをしたり、入浴などでその部位を温めるのを勧めます。いたずらに不安がることなく、ゆったりとした気持ちで生活するほうが、早く症状が治まります。急性期が過ぎ、筋繊維攣縮、筋力低下、筋肉や関節の痛みなどの症状が軽減してきたら、少しずつリハビリを始めましょう。ラジオ体操や散歩などをお勧めします。目安は疲労が翌日に残らない程度です。数日から1週間ぐらい同じ量の運動を続け、調子がよければ少しずつ運動量を増していきましょう。